

26. 解答 e

- a. 誤 壁構造の不明瞭な気腫性変化が主体である。
- b. 誤 蜂巣肺が主体である。
- c. 誤 浸潤影が主体で、胸水を伴う。
- d. 誤 すりガラス影が主体である。
- e. 正 いびつな形態の多発性嚢胞が認められる。

27. 解答 e

- a. 誤 多発性の気腫性変化を認める。
- b. 誤 LIP を伴うことがあり、嚢胞を伴うことがある。
- c. 誤 多発性の嚢胞を伴う。
- d. 誤 多発性の嚢胞と結節が認められる。
- e. 正 SLE 単独で肺野に嚢胞を伴う可能性は低いと考えられる。

28. 解答 a

- a. 正 気管支血管周囲束に沿った浸潤影。
- b. 誤 空洞、浸潤影、結節、ときに **miliary nodules** を呈する。
- c. 誤 典型的にはすりガラス陰影で、進行すると浸潤影を示す。
- d. 誤 続発性は浸潤影、間質陰影、粟粒陰影が主体となる。
- e. 誤 小結節陰影が特徴とされるが、ニューモシスチス肺炎との鑑別は困難。

29. 解答 b

- a. 誤
- b. 正 小葉中心性の多発結節影で **tree-in bud appearance** を示す画像があり、本疾患の可能性が高い。
- c. 誤
- d. 誤
- e. 誤

30. 解答 a

- a. 誤 初回経過観察は3ヶ月頃が多いと考える。
- 本設問は高分化型肺腺癌の可能性があり、b.c.d.e.は正しいものと考えられる。

以上、解答 26～30 は渡部 渉会員（埼玉医科大学総合医療センター）